

VUEVOを用いた情報保障の新たな可能性

1. 従来の音声認識とVUEVOの違い

UDトーク



VUEVO





話した方向から自動的に話者を切り分けて表示 (8名まで)

2. VUEVOのメリット・デメリット

	メリット	デメリット
利用者	<ul style="list-style-type: none"> 話者の音の方向性がわかりやすい 会話を振り返ることができる ビューのデザインを変更できる 	<ul style="list-style-type: none"> マイクの位置の工夫が必要 話者が移動すると話し手が分からなくなる 音の方向性の誤認識 一度に表示される量が多く、見づらい
支援者	<ul style="list-style-type: none"> 誤字訂正の負担が少ない 話者名の入力は最初だけで済む 教室にいる場合、話者の把握が楽 リモートでも支援ができる 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインの場合、話者の把握が困難 資料の読み上げをしている場合は、別の支援方法に切り替える必要がある 声が重なった場合、修正時に混乱しやすい
共通	<ul style="list-style-type: none"> 文字情報の反映が早い デザインが見やすい 音声認識の精度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークの状況で動作が固まることがある 騒がしい環境は適しない 参加者の話し方によっては認識されない

3. VUEVOの効果を最大限に生かすための工夫

支援者

- 話者名を登録する
- 授業資料を確認し、誤認識しそうな単語を登録する
- 状況に応じて支援方法を変える
- 認識が遅れているときや、修正が追いつかない場合、メンバーに伝える

利用者

- 事前に授業資料を支援者に共有
- VUEVOの仕組みを他の人に説明する
- 話者名を登録する
- 全員が座ったら、名前を1人1人言ってもらい、話者の方向が被らないように調整する
- 認識が遅れているときはメンバーに遅れていることを伝達

教員

- 事前に資料を共有
- 認識が追いついているか確認しながら進行する
- 声が被る場合は座る位置の調整を依頼する



音声認識の支援は参加者全員の協力があって成立する!

